

会議名	アンサンブルホーム伊那 大萱・みのりやエリア地域連携推進会議
日時	令和 7 年 10 月 30 日(木)
場所	アンサンブル伊那 会議室
参加者(敬称略)	大萱民生委員 2 名 伊那市福祉課、保護者代表 2 名、ホーム管理者、 サービス管理責任者、施設長

◆議題

1. 開会のあいさつ:施設長

2. 出席者紹介:施設長

3. アンサンブルの活動の紹介(パンフレットを配布):施設長

施設長: アンサンブル伊那: 平成 17 年の 5 月から開所し、アンサンブルホーム伊那第 I も同じ時時期に開設をした。今年度で 20 周年を迎え、10 月 12 日に 20 周年の感謝祭を行い、たくさんのお客さんにご来場いただいた。アンサンブル伊那開設当時は、20 名定員の施設だったが現在では、登録数でも 129 名、その約 7 割の 81 名の利用者がグループホームを利用して生活している。

→アンサンブルのパンフレットを使用して説明を行う。

○現在の状況

施設長: 現在の利用相談では上伊那圏域にとどまらず、木曽圏域や松本圏域、諏訪圏域からの利用相談が後を絶たない状況である。特に障害が重い方については卒業後の行先が見つからないケースが多い。強度行動障害の利用者の方、特に物を壊してしまう、他害をしてしまう、排泄の自立が難しいそういった利用者の方は特に利用先がないことや断られるケースが多い。アンサンブルではそのようななかなか行き先が見つからないケースも含めて困っている保護者や本人のために、自分たちができることは何かという想いでできるだけ受入れを行ってきた。特段、利用者の勧誘など行ってきたわけではない。自然な流れで現在の利用者の数になってきたと思う。

4. グループホームの具体的な運営状況について:ホーム管理者

管理者: 伊那のグループホームは現在 10 棟ある。下新田に 3 棟、大萱に 4 棟、みのりやに 3 棟ある。来年の 4 月に改めて 11 号棟を建設する予定である。基本的には日中、利用者のみなさんが仕事から帰ってきたあと、アフター5から翌朝のまでの時間の生活を支援する場がグループホームである。入浴や食事、時に排泄。または日中の悩みや相談ごとなど仕事としては多岐に渡る。それ以外でも、工作のイベントや体育館で運動をするなどを計画して楽しめるように工夫も行っている。その利用者にあった環境を作れるように対応している。

5. 利用者の生活について:利用者 2 名

利用者①: (事前に用意したホームから帰ってから流れを読み上げる)

施設長: 利用者①さんは畑の仕事に従事しており、今は畑、特にアスパラの栽培に関わっている。トラクターも使うことができ、とても戦力になっている。夕食はランチ班が調理し、それを各エリアに運び、簡単に温めるなどして提供している。

Wifi を各棟完備をしているのでスマートフォンやタブレットで過ごす利用者も多い。

利用者②: (事前に用意した休日の過ごし方を読み上げる)

施設長: 利用者②さんは長野県の障害者ソフトボールチームに所属をして、休みの日は練習にも取り組んでいる。お盆や正月休みもあまり家に帰らず、アンサンブルのホームで過ごすことも多い。長期休みは、同僚と一緒に 3 泊から 4 泊の旅行にも出かける。ホテルの予約など職員で支援を行う場面もあるが、バスなどの公共交通機関のチケットの手配や予約など自分たちで行っている。

民生委員①: 自分の家が利用者の方たちが通勤に使っている道路に面しているので、時々会話が聞こえてくるが、とても話の内容が複雑な内容であったり高度な会話だなと感じている。

民生委員②: お二人は入居されてから同じグループホームですか？

利用者①②: 以前は違うグループホームであった。

施設長①: アンサンブル伊那のグループホームでは様々な形態のグループホームもあるので本人たちの様子や成長にあわせたグループホームへ引越しをすることもある。

民生委員②: 仕事が変わることはありますか？

利用者①②: あります。

施設長: ホームと同様に成長であったり状況にあわせて、班の中で異動することもある。また、松川や駒ヶ根への異動

も、利用者の特性や成長にあわせて健常者と同様に、転勤というかたちで異動することがある。異動については本人の希望だけでなく、職員が状態を把握し、どの施設のどの班であれば成長が期待できるのかを常に考えている。

6. 保護者からの感想や意見

保護者①: 自分の子どもは伊那養護を卒業してからアンサンプルを利用している。卒業してから薪班に入り、今は野外センターでも薪の作業を中心に行っている最初は家から通っていた。家が高遠ということもあり自分の仕事が終わるまではグループホームで迎えを待たせてもらっていた。時間が経過してグループホームを利用することとなり、今では家に帰ってきて生活リズムが崩れることなく過ごしている。

保護者②: アンサンプルを利用する前はなかなか家から出てくるのが難しく、長年家で過ごしていた。38歳でアンサンプルに出会うまでは本当にずっと家族で悩んでいた。最初は通いだったが、実際は理由をつけて休むことも多かった。アンサンプルの方からグループホームへの入居を勧められて、ぴったりとはまったように感じている。職員の方ができないことを根気よく声掛けをしてもらい、できないこともできるようになった。ホームでの様子は連絡帳で生活の様子を書いているので、様子がよくわかる。また様々な健康診断など行ってくれているので、自分ができないことをやってもらい安心している。心配事は現在45歳ではあるが、一定の年齢になると高齢者施設などへ移らなくてはならないか？

施設長: 現在、伊那では39歳の人が1期生で、その辺りが一番、多い年代。現在、歳を重ねて歩けない人利用者は少ないが、いずれそういった課題に少しずつ向かわなくてはならなくなる。現在、新たに建てるグループホームもバリアフリーの設計にしたり、また今まで立ててきたグループホームも同様に高齢になっても住み続けることができるように整備していく。また現在も使用している特殊浴槽など整備していく必要がある。したがって高齢になってアンサンプルの利用がなくなることはない。

保護者①: 以前、夕食をアンサンプルのランチルームで夕食を摂っていた。その後、暗い夜道を一人で帰ったと聞いて少し、不安になったことはあった。それ以外に少し、家に帰った際に髭が伸びたりしているときがあり自分で整容することが難しいので、そういった面を見てもらえると助かる。

民生委員①: 最近の人手不足ということを聞くがアンサンプルではどうであるか？

施設長: 周りの事業所などでそういった話を聞くが、アンサンプルでは職員募集をだすとそれなりに応募はある。職員の福利厚生などアンサンプルではしっかり行っている面が評価され応募者も多いように感じる。

サービス管理責任者:グループホームでは1棟につき概ね2名体制で行っている。時に職員の休みが重なったときは日中職員の応援をもらいながら体制を整えたりしている。

7. 災害対策:サービス管理責任者

サービス管理責任者:年2回の避難訓練を実施している。火災、地震を想定した訓練を行い、安全対策を行っている。

火災時は非常ベルを押すので近隣の方にも聞こえるので予め、訓練を行う日付や時間は伝えるようにしている。基本的に訓練の際は時間を計測して行き、避難もスムーズであるが現実には避難しなければいけない状況であるときはもう少し、手がかかってしまったり時間を取られたり、パニックになる利用者も出てくるので、実際に即した避難訓練を行う必要がある。

民生委員①:避難する際に手が必要な場合もあるかと思うので、近隣の応援体制の必要性は？

施設長:可能な範囲の中で近隣の方の応援をいただいた訓練も検討しようと思う。

8. 11号棟建設について

施設長:アンサンブル伊那は地理的な条件もあり、上伊那だけでなく、諏訪、松本、木曽圏域からも利用の相談にくるケースが増加している。なるべく、自分たちで受け入れられる可能性がある方についてはできるだけ、その声に応えるようにしてきた。よって先ほどお話をさせていただいたように現在、10棟という規模になっている。現在は81名の利用者の方が利用している。空き室も数室はあるものの、利用者同士の相性であるとか重度の方であると1階でないと支援が難しいこともあり、新規に新しいグループホームの建設の必要性に迫られた。今回、伊那市や大萱区の方にも承諾をいただいて、11号棟を建設することとなった。現在の10号棟の真横に11号棟の建設を行う計画。11月4日に入札を行い、それ以降に工事が着工する。

9. グループホームの見学

大萱・みのり屋エリアのグループホームの見学を行う。

